

2月・名護市長選直前！！ 緊急企画！！

2018年1月20日(土)9:50～ ドキュメンタリー映画上映会

「辺野古ゲート前の人びと」

森の映画社作品：2017年／98分 監督／藤本幸久・影山あさ子 <http://america-banzai.blogspot.jp/>

※名護市長権限で辺野古漁港の使用許可を出さず、基地建設を具体的に止めている稲嶺市長の選挙が来月にあるとのことで、札幌でも現地の状況を知るために急遽企画しました。



※以下、森の映画社ホームページより抜粋：2016年12月、埋め立て承認取り消しを巡る国との裁判は、最高裁で沖縄県が敗訴した。しかし、辺野古新基地建設阻止を県政の最大の課題とする翁長知事は、7月24日、国に対して新たな裁判を提起した。県の岩礁破碎許可を受けずに工事を進めるのは違法だと、工事の差し止めを求める裁判だ。辺野古はいよいよ、新基地建設を止めることができるのかどうかを決する局面に入っている。翁長県知事は、あらゆる手法を駆使して、新基地建設を止めるという構えを崩してはいないが、あらゆる権力をつかって国は抵抗を押さえつけ、工事をすすめようとしている。

鍵を握るのは、辺野古ゲート前の人びとだ。

護岸を作るために海に投入されている石材は、すべて工所用ゲートから運び込まれている。200人、300人の人びとが座り込むと工所用資材の搬入は止まってきた。

ゲート前の人びとは屈しない人たちだ。

山城博治さんたちが拘留されている間も、毎日、裁判所前で声を上げ、2月には規制を越えて300人が裁判所の前庭に入り、「博治を返せ」と迫った。300人の体を張った行動が、裁判が終わるまで釈放されないとされていた3人を釈放させた。

ゲート前の人々は、ごく普通の沖縄の人びとだ。それは同時に、沖縄の戦中・戦後を背負い、生き抜いてきた人びとでもある。

「私たちに会いに来て。私たちと一緒に座ろう」と今日もゲートで呼びかけている。

◎日時：2018年1月20日(土) AM9:50 (開場 15分前) 上映時間98分

◎会場：札幌市教育文化会館 4階 講堂

(札幌市中央区北1条西13丁目 地下鉄東西線西11丁目駅徒歩5分)

◎参加費：カンパ制・予約不要

(経費を除いた収益は沖縄の辺野古基地反対のために使います)

主催：What's <https://whats-everything.jimdo.com/>

